

びびっと! ✨



壱岐市内の特別支援教育に携わるみなさま、初めまして。虹の原特別支援学校壱岐分校 教育支援部の山崎翔矢です。ここでは、先生方の特別支援教育に関する悩みや疑問に一つでも多くお答えできるような情報を発信していきたいと思っています。

タイトルの「びびっと!」ですが…

- ・本校の校名に入っている「虹」のごとく鮮明で有益な情報 (vivid)
- ・これと呼んだときに「びびっと」感じるような情報
- ・この記事をきっかけに子供たちや先生方が生き生きとなるような情報 (vivid)

このような意味を込めました。壱岐市内の先生方のニーズをできるだけ拾い上げて記事にしていきたいと思っていますが、その他にも取り上げてほしい内容等がありましたら、いつでも虹の原まで御連絡ください。お待ちしております。

「親の障害受容」について

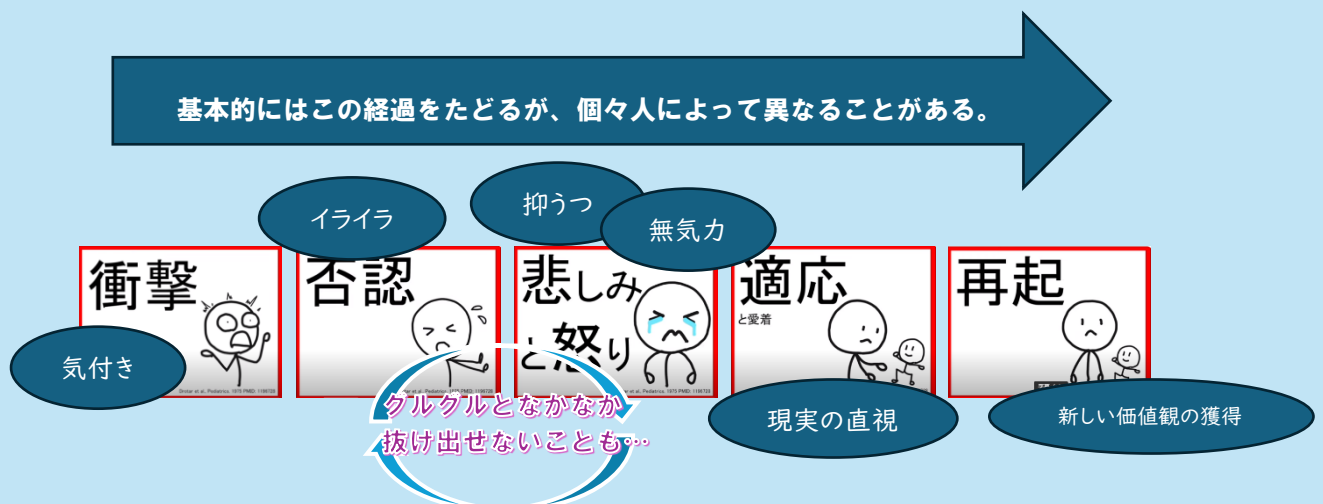
記念すべき第1回のテーマは「親の障害受容」です。少々重くセンシティブな内容にはなりますが、記載させていただきます。この「親の障害受容」(もしくは学校での困り感への理解)は、校内委員会の開催の出発地点となるのですが、障害受容がうまくいっていないと、支援のスタートをなかなか切ることができません。では、どうして「親の障害受容」がうまくいかないのか、などについて触れながら話を進めていきます。

なぜ受容することが難しいのか

一般的に障害のある子供の親の障害受容は、以下の図に示したようなプロセスを経て、受容していくとされています(Drotar, et al. (1975))。“気になる子”と感ぜられる子供は、幼少期の頃から何らかのサイン(兆候)を示していることが多いものの、一般的に同じような子供が周囲にいたり、定期健診(3歳児検診など)の際に「様子を見ておきましょう」と済まされたりすることで、障害に対する気付きや受容の機会を逃してしまうことがあります。このことにより、我が子の障害への気付きを遅らせるとともに、「うちの子に限って」という正常性バイアスを強めていくことになります。

学校や幼稚園、保育園に入り、第三者との関わりが始まり、子供の学校や園での様子を見たり担任の先生から話を聞いたりすることで、「他の子とは違う」という【衝撃】を受けます。それをなかなか受容できずに、医者から「障害はない」と言ってほしくていくつも医療機関等を回って(ドクターショッピング)しまうなど、子供の障害を【否認】してしまうことがあります。なかなか受容がうまくいかず、【悲しみ】にくれたりそんなわが子を産んでしまった自分に【怒り】を覚えたりすることもあります。このときの保護者は相当な“孤独感”を感じていることでしょう。しかし、そのようなとき、よき理解者や支援者が近くにいることで、「この子にどう向き合っていこうか」と考えるようになり【適応】し始めます。子供に向き合っていく中で「障害はあっても伸ばせるところはあるよね」などと新しい価値観が生まれ、前向きな子育てに向けて【再起】していきます。【否認】～【悲しみと怒り】の最中にある保護者にとって、私たちがよき理解者や支援者になり、保護者を【適応】⇒【再起】の前向きな方向に導いていきたいと思っています。

あくまでこれは一般的に言われてる過程であって、特に【否認】～【悲しみと怒り】の部分を行ったり来たりすることが多いとも言われています。【適応】に向かうまでの壁は厚く、また高いものであることは容易に想像できます。それが“障害受容”の難しさと言えると思います。



“前向きな諦め”に向けて

前述の障害受容の部分で「【適応】に向かうまでの壁は厚く、また高いものである」と記しましたが、そこを乗り越えた先にあるのが“前向きな諦め”でしょう。諦めという言葉はネガティブに捉えられがちですが、“前向き”であることが重要です。

「決して良い子でなくても大丈夫」

「良い子を育てる良い保護者でなくて大丈夫」

と思うことで、受容へのハードルがぐっと下がることと思います。例えば、不登校の子に対して「学校に行くべき」という保護者の理想がなくなったら、不登校という概念自体がなくなります。こういったさまざまな“こうあるべき”が子供や保護者の自身、ひいては私たち教師側にも障壁を与えてしまいかねません。そうならないためには、

○教師や保護者などの大人の勝手な理想に子供を収めない

○子供自身を見つめる

○昨日よりも今日、少しでも前進していればそれを褒めてあげる

このことが重要であると感じます。このことを通して保護者に寄り添い、よき理解者や支援者になることで、目の前の子供がより良い学び、暮らしができるようにしていきたいと思います。

《参考・引用》

○「我が子の発達障害傾向を受容できない保護者の支援」

日本教育心理学会第56回自主シンポジウム資料

○「親の障害の認識と受容に関する考察-受容の段階説と慢性的悲哀」(1995)

中田洋二郎 国立精神・神経センター精神保健研究所

○「親の障害受容について」 https://www.youtube.com/watch?v=qS9tKDcO_iY

○「障害受容の問題」 <https://www.youtube.com/watch?v=8asth3HOquI&t=298s>